

科目名	幼児理解と教育相談				担当	大塚 美奈子			
形態	講義	単位数	2	開講時期	2年前期	実務経験	教員として特別支援学校に勤務経験有		
必修	幼免：必修				ナンバリング	Y2104	DPとの関連	2	
授業概要	<p>幼児教育を行うに当たっては、幼児の発達の特徴を理解すると共に、幼児を取り巻く環境の諸問題を捉え、家庭や関係諸機関と連携しながら解決していくことが求められる。そこで、本講義は、幼児期を中心に発達の観点から幼児理解をしていくと共に、幼児や養育者の関わる諸問題解決に必要な教育相談に関する基礎的知識を学ぶ。</p>								
到達目標 学習成果	<p>1. 幼児期の発達を理解し、子どもへの発達援助について述べることができる  2. 養育者の気持ちに寄り添い、子育てを支援する方法について述べるができる  3. 教育相談活動と多職種連携について理解し、述べるができる</p>								
授業計画	回	内容							
	1	幼児理解とは	現代社会における今日的課題					援助の姿勢	
	2	幼児を理解する①	乳児期の発達						
	3	幼児を理解する②	幼児期の発達						
	4	幼児を理解する③	学童期・思春期の発達						
	5	幼児を理解する④	発達障害や気になる子ども					幼児の心理的不調	
	6	子どもの発達とアセスメント①	観察と記録 行動分析						
	7	子どもの発達とアセスメント②	行動分析 心理諸検査の概要・活用方法						
	8	保育カウンセリング①	カウンセリング技法のワーク						
	9	保育カウンセリング②	教育相談の基礎						
	10	園における教育相談の意義と活用	親の精神的不安 家庭の機能					保護者への対応	
	11	教育相談①	専門家・園・家庭との連携事例						
	12	教育相談②	多職種との連携事例						
	13	教育相談③	幼児・児童虐待事例						
	14	教育相談④	障害のある子どもの事例						
	15	教育相談⑤	就学相談の事例						
評価基準	<p>専門職としての専門性が培われたかどうかで評価する  (専門的知識や概念・考え方を習得し、述べるができるかをみる)</p>								
評価方法	<p>授業態度 40% 期末試験 60%</p>								
フィードバック 方法	<p>授業内で演習課題を行い、その都度演習シートを通じて評価し返却する</p>								
アクティブ ラーニング	<p>グループディスカッション・ロールプレイ</p>								
教科書	<p>「子どもの理解と保育・教育相談」(小田 豊・秋田喜代美 編 みらい)  必要に応じて資料等を配布する。</p>								
参考書	<p>『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』</p>								
履修条件	<p>幼児や養育者の困り感に寄り添う姿勢を持ち、グループワークでは、積極的に意見を出し意欲を持って保育・教育現場の支援方法を学ぶこと</p>								
授業外学習	<p>予・復習及び授業で指示する</p>								
オフィスアワー	<p>第 12 番研究室 mail:office365 outlook</p>								